

主催
相馬ク◇ニクル /
3がつ11にちをわすれないためにセンター
(せんだいメディアテーク)

相馬ク◇ニクル

相馬高校放送局の震災後制作の映像上映を主たる目的とした任意団体です。相馬高校放送局は日本ジャーナリスト会議特別賞を高校生として初めて受賞するなど、国内外で高く評価されています。

3がつ11にちをわすれないためにセンター

せんだいメディアテークが、市民、専門家、アーティストと協働し、震災とその復旧・復興のプロセスを独自に記録・発信していくため、2011年5月3日に始めたプラットフォームです。参加者は、個人個人が体験した震災を映像、写真、音声、テキストで記録します。それらの記録は、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として整理・保存され、さまざまな形で利活用されています。

<https://recorder311.smt.jp/>



第6回



せんだいメディアテーク

〒980-0821
仙台市青葉区春日町 2-1
tel 022-713-4483 / fax 022-713-4482
mail: office@smt.city.sendai.jp
<https://www.smt.jp/>



●地下鉄 南北線勾当台公園駅から徒歩 6 分／東西線大町西公園駅から徒歩 13 分 ●バス 仙台市営バス 仙台駅前 -60 番（仙台 TR ビル前、地下鉄仙台駅「中央 2」出口前）のりばから「定禅寺通市役所前經由交通局大学病院」行き（系統番号が J または X で始まるバス）で約 10 分、メディアテーク前下車。

※この用紙はリサイクルできます

変わりゆく福島

2019
12/8(日) 14:00-16:00

せんだいメディアテーク 7f
プロジェクトルーム

入場無料／申込不要／直接会場へ



せんだいメディアテーク
sendai mediatheque

○相馬ク◇ニクル△ダイア□ク※

変わりゆく福島

2011年以降、相馬高校放送局では東日本大震災にまつわる映像・音声作品の制作に取り組んできました。今回はその中から2011年～2015年に制作されたドキュメンタリー作品を上映します。制作年順に作品を観ることで、制作者である福島県の高校生がそのとき抱いていた想いや伝えたかったこと、それらが時間が経つとともにどのように変化していったのかを感じることができます。

また今年の10月12日、日本各地を襲った台風19号により相馬クロニクルの本拠地である福島県相馬市も大きな被害を受けました。多くの家屋が浸水し、断水が続くエリアがあり、10月18日現在、先が見えず不自由な生活を送っている方たちがたくさんいます。

震災から8年が経過し、復旧が進むなか再び被災することになった今、被災地に暮らす人、近い地域の人、遠い地域の人、それぞれが自然災害というものに対してこれからどうしていけるのかを、ご来場のみなさんと一緒に考える機会にできればと思います。

上映作品

緊急時避難準備不要区域より

(音声ドキュメント / 2011年 / 7分)

Girl's Life in Soma

(映像ドキュメント / 2012年 / 8分)

相馬高校から未来へ

(映像ドキュメント / 2013年 / 8分)

ちゃんと伝える

(映像ドキュメント / 2014年 / 8分)

いつかきっと

(映像ドキュメント / 2015年 / 8分)

相馬クロニクルダイアログ

相馬高校放送局の震災後制作の映像上映を主たる目的とした任意団体「相馬クロニクル」の音声・映像作品に見られる福島県の高校生の震災や原発事故に対する想いから、私たちの暮らしやこれからのことを話す対話の場です。